

商店街活性化若手プロジェクト 第4回商店街 HACK イベント「地域に変化を生む組織の作り方」開催結果

- 1 開催日時：2017年2月21日（火）午後7時から10時
- 2 開催場所：KRP 町家スタジオ
- 3 参加者：約25名
- 4 タイムテーブル：
 - 19：00 ～ 事業説明・自己紹介等
 - 19：20 ～ ゲストによるトーク
 - 20：30 ～ 質疑応答
 - 21：00 ～ 交流タイム

5 概要

- ① 参加者全員の自己紹介
- ② 荒木宏之氏のトーク

荒木宏之（あらき ひろゆき）氏

クロスロードカフェ 店主／伊丹商店連合会 会長

1955年伊丹生まれ。阪神大震災を経てまちづくりに関わり、「伊丹まちづくり会議」を市民たちと共に立ちあげる。2002年、クロスロードカフェオープン。2009年より伊丹郷町商業会会長。

「伊丹まちなかバル」 「伊丹郷町屋台村」 「鳴く虫と郷町」 「伊丹のお店で子ども職業体験 はたら子」 「昆陽池フェス 伊丹グリーンジャム」 「イタミ朝マルシェ」 などユニークでオンリーワンな、まちなかイベントを持続継続して開催。

昨年、伊丹郷町商業会会長を退き、全国的にもあまりない若手中心の体制に導く。

- 伊丹は、人口20万人。コンパクトな町。梅田から15分と大阪から意外に近い。もちろん飛行場は有名。スカイパークという飛行機の離発着が見られるところは、カメラマンに人気。
- 年間を通じてイベントでにぎわう、伊丹市の三軒寺前広場は、まちなか広場大賞（一般社団法人国土政策研究会「公共空間の『質』研究部会」主催）で優秀賞をとった。

<「クロスロードカフェ」について>

- 平成7年1月17日に阪神淡路大震災が起こり、伊丹も大きな被害を被った。国の復興資金がまちづくりに充てられた。行政主導のまちづくりでは、学者やコンサルが大枠を決めるので、何かを始めたいと思っても一定の枠内でしか動けない。
行政に頼らず、自分たちの力でまちづくりを進めたいと思い、「伊丹学講座」（地元のシンクタンク主催）の仲間が集まり、「伊丹まちづくり会議」を発足（構成は主婦、学生、商店主、行政等）。
その拠点として、平成14年にギャラリーを併設した「クロスロードカフェ」（伊丹シティホテルから猪名神社に続く南北の交差点に立地）をオープンした。ギャラリーでは、外から人を呼びたいと、200回くらい、いろいろな作家の作品を紹介。
- 伊丹で様々な動きが出ているのは、「クロスロードカフェ」の存在が大きい。そこにアンテナを持っている人が集まることで、様々な面白い動きにつながっている。

<伊丹郷町商業会（2001年～）について>

- 伊丹の中心市街地周辺の商業者・事業者が集まり街を活性化させるため、商店街の枠を超えた広域の団体として結成した。この団体があることで、広域でのイベントがやりやすくなっている。
- 2009年からは自分が会長を務めたが、2016年に30代の店主を会長にした。昔、伊丹商店会連合会会長になり会合に行った際、70～80代の世代が多く、違和感を感じたことがあった。若い人

を登用する改革は今しかできないとの思いから、組織の若返りをはかった。平均は35歳。70～80代の方が後ろで支えている。

- 若い人たちが自主的にやり始めることはなかなかないので、一緒になって面白がる、楽しむ姿勢でバックアップしている。若者の提案に対して、それをOKと言う人がいるのが良い。

<各種イベント等について>

- 伊丹にはいろいろなイベントがあるが、「持続・継続」がキーワードなので、打ち上げ花火的なものはない。
- もともと伊丹には商店街同士の連携ができていたので、イベントから次のイベントが生まれていく。また、若い世代の活動が活発で「枠組みからはみ出る」連携ができています。
- イベント等を通じて、人との出会いもある。例えば、中脇健児氏は、公益財団法人伊丹市文化振興財団職員で行政に近い人間だが、まちの中に入らないと地域が分からないということで、早い段階から一緒になって活動してくれた。今や伊丹の中心人物（「場とコトLAB」代表ほか）。
- 例えば次のような様々なイベントを実施
 - * 『鳴く虫と郷町』（2006年～） <http://www.nakumushi.com/>
 - ・ 昆虫館に協力してもらい、町中に虫をおく。虫の音に秋を感じてもらう10日間のイベント。
 - * 『伊丹まちなかバル』（2009年～） http://www.itami-toshikaihatsu.co.jp/event_bar/
 - ・ 日本の中では大きな規模のバル。100前後の店で実施。営業は12時～イベント終了（遅いところは翌朝5時）まで。ワンドリンク+ワンピンチョス（つまみ）が基本のセット。チケットは1綴り3500円で、5000枚発行。
 - ・ 当初20店くらいで予定していたが58店になった。それが毎年さらに増えていった。なぜこんなに大きくなっていったかという、広いエリアでの郷町商業会の組織があったから。
 - * 『伊丹郷町屋台村』（2011年～） <https://www.japantimeline.jp/jp/0000001584>
 - ・ 東日本大震災でイベントは自粛ムードだったが、復興支援のためのイベントとして開催し、その売り上げから支援金を送り続けている。若い人が12、3店集まってやっている。
 - * 『イタミ朝マルシェ』 <http://itami-tc.com/itamiasamarche/>
 - ・ 毎月1回、日曜日に開催し、51回目を迎える。
 - ・ 伊丹都市開発（旧NPO法人伊丹タウンセンター）が事務局機能を担っている。
 - * 音楽フェスティバル『ITAMI GREENJAM』 <http://itamigreenjam.com/>
 - ・ 昆陽池で若手経営者たちが音楽フェスティバルを開いた。そして、その運営・企画にかかわった若者たちが中心になって、伊丹商店連合会青年部「worlds」を立ち上げた。
 - ・ 「ITAMI GREENJAM」は、来年度は9月17日、18日に1万人規模で開催予定。
 - * 『伊丹ダンスバル』（2014年～） <https://www.facebook.com/events/596533813849212/>
 - ・ ブレイクダンススタジオを主催している人が中心となり開催。
- 「ITAMI GREENJAM」で生まれた若者クリエイターのコミュニティによって、10年間空いていたビルを全て自分達でリノベーション再生した「GREENJAM BUILDING」も登場。カフェ、セレクトショップ、ギャラリー等が入っている。（<http://www.festival-life.com/spot/40756.html>）

③ 質疑応答

Q：以前の伊丹商店会連合会は機能していなかったのか。

A：伊丹は元々歴史があり、老舗が多いところ。その老舗が協力してくれないと取組は難しい。また、震災で人の流れが阪急側からJR側へと大きく変わった。さらに、イオンモールが2002年にでき、別のイオンもできた。20万都市にイオンが2つもあるのは珍しい。サンロード商店街近辺にはマンションが増えているものの、駅前にイオンがあるので、商売はしんどい状況だった。

Q：商店街の後継者についてはどうか。

A：代替わりした人（2代目等）が3割、起業して入ってきた人が7割。空き店舗は減ったが、まだ

多い。ただし、バルの効果で、飲食業を目指して伊丹に来る人は多い。

Q：商店の人だけでイベントをやるのは大変だと思うが。

A：事務局機能があるかどうか成功するポイントだと思う。伊丹の場合は、伊丹都市開発（旧NPO法人伊丹タウンセンター）が、「伊丹まちなかバル」「イタミ朝マルシェ」などの事務局機能を担ってくれているのでできている。

④ 交流タイム

※ ゲスト等との意見交換後、参加者全員が一言感想を言って終了

以上